



群私幼

No.
175

2016年(平成28年)6月8日発行
 (一社)群馬県私立幼稚園・認定こども園協会

発行人 原 徳明
 編集人 高月 広喜

群私幼事務局/☎371-0854 前橋市大渡町1-10-7
 群馬県公社総合ビル6F 私学センター内
 TEL.027-280-6206
 FAX.027-280-6208
 URL・http://www.gunshiyou.jp/



ツリーハウス 「のぼるぞ〜!!」

CONTENTS

- ② ごあいさつ
 * 原 徳明群私幼協会長
 28年度定時総会から
- ③ ごあいさつ
 * 中村弘子こども未来部長
 28年度各部の活動方針
 * 総務部長 権頭 俊澄
 * 研究部長 柳 晋
 * 経営振興部長 中村登美子
- ⑤ 各種委員会の計画等
 * 研究委員会
 * 適性検査実行委員会
 * 広報編集委員会
 * ニュージーダーの会
- ⑥ 新企画「あそびのタネ」
 ほほえみインタビュー
- ⑦ 連載「フロムぐんまちゃん」
- ⑧ 研修だより
 * 新採研(前期Ⅰ)(4/2)
 * 新採研(前期Ⅱ)(4/4)
 関東地区情報
 編集後記

「リサイクル+αの情報」提供開始!

「廃棄処分するのはもったいない(…でも、もう使っていないし、これからも使わないかも)」

「このウサギさん、大事に飼ってくださる方があればね…(お譲りするのだけ)」

そうした声の情報を提供する企画です。

机やイス、遊具、教具、楽器、おもちゃ…などリサイクルできる何かがありましたら、また、お譲りできる動物などがいましたら、群私幼事務局へメールをしてください。加盟園にメールでお知らせさせていただきます。その後は、園と園で話し合いをしてください。なお、売買は厳禁とします。また、トラブルが生じた場合は当事者同士で解決することとします。譲る物件が資産計上しているものについては、会計処理に疑義や誤りが生じないように留意してください。

☆メール連絡事項

- ①園名
- ②電話番号
- ③連絡責任者名
- ④リサイクル等をする物の名称
- ⑤数
- ⑥④の写真を添付

「幼児教育振興法」



（一社）群馬県私立幼稚園・認定こども園協会 会長

原 徳 明

昨年秋季にお願いした「幼児教育振興法（仮称）」の早期制定を求める署名活動では、多くの教職員をはじめ保護者の皆様のご支援で430万人を超える署名が集まりました。

この法案制定の大きな目的のひとつは幼児教育無償化です。幼稚園、保育所、認定こども園に通うすべての3〜5歳児の教育経費も対象にした財政根拠法が必要となります。私立幼稚園に在籍する園児の教育経費の半分を私学助成でまかない、残りの半分を就園奨励費で軽減するというのが無償化の構造となっています。無償化はすでに幼稚園就園奨励費制度の拡充で着実に広がり、第三子は全員無償、第二子の負担も大幅に減り、所得の低い世帯では第一子もほぼ無償化されています。しかし、私学助成については機関補

助の「私学振興助成法」という根拠となる法があるのに対して、個人給付の就園奨励費には根拠となる法が今現在はありません。そのため、私学助成と就園奨励費両方をまとめて無償化のために新財政根拠法をつくるというのが命題です。

全日本私立幼稚園連合会定時総会が開催された平成28年5月24日の午後幼児教育振興法案が衆議院に提出されました。この法案においては、2005年の中教審答申今後の幼児教育の在り方についてに示された幼児教育の重要性、家庭・地域社会との連携の大切さを喚起し、「幼児の生活および発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実」を踏まえて、幼児教育の意義・必要性を述べた上で、基本施策として、幼児教育の質の向上（第11条）、幼稚園教員等の処遇改善（第12条）、幼児教育の体制整備（第16条）、幼児教育無償化の推進（第17条）等が掲げられております。

韓国では1982年に同じ名称の「幼児教育振興法」が制定され、これによって韓国の教育環境、財政支援は日本を追い抜くほどにレベルアップしたと言われています。今後も法案成立に向けて、組織を集結し、その推移を見守っていかなくてはなりません。

第52回 定時総会

安中二葉幼稚園 園長

岩 淵 育 雄

平成28年5月11日、マリーキュリーホテルにて、群私幼第52回定時総会が開催された。

本会が、「一般社団法人群馬県私立幼稚園・認定こども園協会」として2年目の歩みを重ねることができた。原会長より全国私幼連の理事長会議での熊本県地震の被災の様子が報告された。また、昨



開会式にて祝辞を述べられた反町敦副知事

年幼児教育振興法に向けて430万人を超える署名を集め6月13日に提出することや1号認定の子どもも含めて保育料の無償化へ向けた運動、本団体による免許更新が実施されること、学校評価の第三者評価、幼稚園教育要領改訂中、子どもの遊びの重要性、待機児童の対応、3年後に70周年を迎えること等々の現状分析や課題が報告された。

来賓の群馬県副知事反町敦様から知事大澤正明様の祝辞が、代読された。副知事の幼児期の砂場遊びのエピソードなども紹介された。平成28年度の県政では、第15次群馬県総合計画がスタートしたことで、未来創世のために力を合わせて幼児教育の発展に尽くすことが語られた。

議事としては

- (1)平成27年度事業報告
- (2)平成27年度収支予算と監査報告
- (3)会員の異動
- (4)平成28年度事業計画(案)
- (5)平成28年度収支補正予算(案)
- (6)その他

それぞれ満場一致にて決定された。

総会終了後、同会場にて意見交換会が実施され、群馬県こども未来部の中村弘子部長より激励のご挨拶を頂戴し、学事法制課の方々と意見情報交換が行われた。また、園長同士の現状への不安や今後の方向などについて情報交換がされ有意義な時間となった。

新年度を迎えての ごあいさつ



群馬県子ども未来部長

中村 弘子

若葉を抜けて吹く風が心地よい季節です。園児達も新しい環境に慣れ、楽しく遊んでいることでしょう。

県ではこの四月、「子ども」を施策の中心に据えた新組織「子ども未来部」が誕生しました。背景にあるのは、子どもが健やかに生まれ、育ち、自立して親になるといふ、大切な生命のサイクルが、所々で停滞したまま改善しない現実です。微力ではありますが、皆様のお力を借り、子ども達が喜んで大人になってゆける環境を少しでも整え、一つでも多くの生命を次世代に繋げていけるよう勤めていきたいと思っております。

新制度も2年目を迎え、今年は本格稼働の年となります。これからの幼児教育をしっかりと守るためにすべきこと

は多数あります。中でも保育者の質の向上、研修機会の確保は、きわめて緊急な課題です。これまで群私幼が大事に守ってきた宝物を、新しい時代の中でどう充実させてゆくか、どうぞ一緒に考えてください。
今年度もよろしくお願ひします。



三部長に今年度の 活動方針を聞く

総務部の主な活動方針



総務部長(副会長)

権頭 俊澄

1. 総務

- (1) 予算の適正な執行と円滑な事務業務の実行に努める。
- (2) 関係官庁、諸団体との連携を図り私立幼稚園や認定こども園の振興に努める。
- (3) 協会関係諸規程の整備とその適正な運用を図る。
- (4) 時代の変化に対応した協会組織を検討する。
- (5) 本協会創立70周年記念事業について検討・準備する。
- (6) その他、研究部・経営振興部に所属しない事項

2. 広報

- (1) 広報編集委員会を設置し、機関紙

- を年間4回発行することにより、本協会の活動内容を内外に知らせる。
- (2) 協会ホームページの充実を図り、会員・教職員・保護者等に役立つ情報の提供に努める。
- (3) 私立幼稚園・認定こども園をとりまく情報を収集し、設置者・園長向けに電子メール・文書等で提供する。

3. 群馬県私立幼稚園教諭・保育士適性検査実行委員会の設置及び運営

- (1) 「適性検査」を実施する。
- (2) 「就職説明会」を実施する。

4. 「ニューリーダーの会」の活動を支援し連携を図るとともにその運営を監督する。



研究部の主な活動方針



研究部長(副会長)

柳 晋

したテコ入れ作業が円滑に進みますよう、先生方一人一人が研修に積極的に参加して、まずは自己評価力を高めていただければと思います。幸いにして群馬県は公私問わず、研修に関しては相互乗り入れが積極的に行われている全国的にも特筆される位置にいます。

未来を担っていく人材に幼児期をどう過ごし、何をどう学んでもらうか、じっくり腰を据えて吟味していく必要があります。それが私たちの専門性です。子どもも大人も皆で育ち合う環境作りを群私幼で一丸となってやってみましょう。

教育要領ならびに教育・保育要領も次のステップへ踏み出す準備が進められています。まさに現行の教育要領が目指す「幼児期の終わりに育ってほしい姿」と実際の「年長さんの生活する姿」を照らし合わせてみる作業が大詰めを迎えている時期と言えます。こうした実現状況の検証は国家的な振り返りであり、実践の担い手である私たちにとっても、現状を踏まえ、次の10年に見通しを立てる大事な手立てとなります。

各園でも教育課程や保育課程、さらには長期指導計画にも手を入れる機会になります。再びこれから来る時代に対応した子どものための保育内容が提供できるよう、私たち実践者の意識はもろろんのこと、物的な環境作りに圍ぐるみの大きな評価・改善が必要です。少しでもそう

新制度のスタート以来、各園の取り組みも多様な形態をとっています。そこに影響されるのも組織的な研修体制の在り方です。例をあげれば28年度は新規採用者の研修も、そのねらいや目的を達成するために実施方法を見直します。しかし、これは改革のための刷新ではなく、必要に応じての試行に過ぎません。もはや研修一つとっても実施形態には柔軟さが求められています。これまで諸先輩が築いてこられた組織としてのレジリエンス「社会的な環境と共に変化する力動的な特性」がこれからもますます発揮されるよう調整していこうと考えます。

実践現場におかれましても、まずは「自ら経験を積む行為」として保育に粘り強く取り組み、「自らの学習活動」として、それを十分に振り返りながら次に繋げていただければと思います。子ども達だけでなく、こうした主体的な学びは保育者にもキャリアとして蓄積されていきます。それを保障できる「研修・研究の場」作りに、皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。

経営振興部の主な活動方針



経営振興部長(副会長)

中村登美子

興部としましては、2年目を迎えた新制度の各地区の対応状況や移行後のメリツトや課題など設置者園長会で取り上げて行きたいと思えます。

皆さまの貴重なご意見など、どしどし寄せていただき、また、多くの設置者・園長の方々にご参加いただき意義のある設置者園長研修会が行えるようご協力をお願い致します。

また、本協会とPTA連合会が連携して私立幼稚園及び認定こども園への理解が深まるよう努めて行きたいと思えます。

〈主な事業〉

- 主任研修会
- 設置者園長研修会2回
- 園児送迎バス運転者講習会
- 「新制度」の施行により現場で生じる問題点や課題を検討し、その支援をする
- 本協会PTA連合会活動との連携
- 県内各地区の子育てセミナー等の支援
- その他

子ども子育て支援新制度が2年目を迎える会員園それぞれが園の状況に応じた選択をされており、まだまだこれから新制度への移行の動きは続くと思います。また、各市町村の新制度に対する対応はそれぞれ違っております。今年度の経営振



各種委員会の計画等

◆研究委員会◆

継続して各園から研究委員の先生を派遣していただくことで、園内研修へ向けた情報の提供やブロックごとの研修の活性化を図ります。地区の研究担当理事と研究常任委員の先生方を中心に、群私幼の研修がより一層それぞれの園に反映できますよう組織的な取り組みにご協力ください。

◆広報編集委員会◆

広報編集委員会では、広報に関する要望やご意見・ご感想などを募集しています。お気付きの点は各地区の広報編集委員又は群私幼事務局までご連絡ください。平成28年度の広報発行予定は次の通りです。

- ◆175号平成28年6月8日
- ◆176号平成28年10月3日
- ◆177号平成29年1月20日
- ◆178号平成29年3月27日

(編集委員長／高月広喜)

◆ニューリーダーの会◆

4月28日にホテルサンダーソンにて平成28年度「ニューリーダーの会」総会が開かれました。今年度は、役員改選は行われず、昨年度と同じ執行部となります。

- 代表幹事 茂木 直(こひつじ)
- 副代表幹事 権頭 泰澄(ポケット幼)
- 今井 啓太(認三子山幼)
- 原 徳応(長野幼)
- 会計担当幹事 丸山 香積(すみれ幼)
- 鈴木 淳志(田部井幼)
- 監査人 関口 智行(認山王幼)

また、今年度は1名の新入会員を迎え、計23名で活動していきます。

- 新入会員紹介 笹川 香 (こだま幼)

【主な活動】

- 教職員向け研修会の企画・実施

会員対象の研修会だけでなく、教職員の資質向上の為の研修会を企画・実施します

6月10日(金)に群馬県公社総合ビルにて、人形劇団やまねこ座を講師に招いて表現力を磨くための研修会を予定しています。

- 視察研修会

会員園等の幼稚園を訪問して、保育や施設の見学を行い、意見交換をします。

また、県外の園でも、先進的な取り組みをしている園を見学し、さらなる幼児教育の質の向上を目指します。

- 勉強会・会員交流会

会員同士で研究課題を決めて勉強会を行います。保育の取り組みに関することから、制度に関する勉強会、防災などのマニュアル作りなど、その時に必要とされている課題を取り上げて意見を出し合います。

(代表幹事／茂木 直)

◆群馬県私立幼稚園・認定こども園

幼稚園教諭・保育士適性検査実行委員会◆

平成28年度適性検査は次のとおり実施します

- 期日 平成28年8月27日(土)
- 会場 高崎商科大学
- ①一般教養(基礎的な専門分野も含む)
- ②教職教養その他(記述式)

※詳細については6月下旬までに、各園に実施要項を送付いたします。

(適性検査実行委員長／守山 俊尚)



平成28年度ニューリーダーの会 総会の様子

新企画

「あそびの夕ネ」

「このあそびがたくさんの園で芽を出し花開くことをねがって」

「○・△・□のもようを描く」

(自由画の作品を作る)

(ねらい)

丸・三角・四角は絵の基本で誰でもかける模様だから、のびのびと自由に描くことにより描くことの楽しさを感じたり、作品として仕上げることで達成感・充実感あじわう経験を通して、自由画への抵抗感を少しでも解消できるようにする。

- ① はがき大の画用紙2枚
- ② 油性のサインペン (5色)
- ③ 黄色の絵の具・絵筆
- ④ 額 (百円ショップはがきサイズ) 額に入れるマット



(あそびの様子)

自由に絵を描くことが苦手な子に、描くことの楽しさを経験させる。また、作品として形にすることで完成した充実感や達成感を感じられる活動として、造形教室主宰で画家の筑井孝子先生のアドバイスでこの活動を行った。



抵抗なく描ける丸・三角・四角をはがき大の画用紙に油性ペンで自由に描く。上から黄色の絵の具を塗る。乾いたら2枚から1枚自分で選んで、マットを入れた額に入れて作品として完成させる。

自由に描くことが苦手な子や、いつも描き出せずにいた子が次々と○・△・□の模様を描き出し、塗りつぶした形の形・大きい形・小さい形など自由のびのびと描いていた。2枚から選ぶのも慎重に真剣な様子で、マットを入れた額に入れて仕上げると自分の作品が芸術作品のようになり、それぞれに感動した様子だった。最後に皆の前で作品お披露目会もおこなった。作品は母の日のプレゼントとして持ちかえった。家庭ではピカソ的な作品との評価をいただき、茶の間に飾られているとのこと、保護者の方にも驚きと感動が伝わったようであった。(押江/記)



① 幼稚園の先生になった理由は？
「子どもが大好き」がいちばんの理由です。小学生の頃から近所の小さい子ども達が「順ちゃん遊ぼう」とよく家に来て一緒に遊んでいました(高校生の頃まで)。高校の部活の先生からも「幼稚園の先生になったら合ってると思うよ」のアドバイス。一歩踏み出す大きな力と自信になったと思います。

② 忘れられないエピソード
今は旧館と呼んでいる園舎を建てる時、大きなプレハブを借り3才児2クラスのお部屋として使う事になりました。念願の3才児担任はとても嬉しかった事を覚えています。が、一つ困った事は、プレハブのドボントイレへ子ども達を連れて行く事でした。可愛いお尻がトイレの中へ落ちてしまいそう、ドキドキしながらお尻を押さえていた事を懐かしく思い出します。

③ 自園のPR(プチ自慢)
緑広がるこの庭に♪と園歌で歌っている様に、広い園庭は大きな木々に囲まれて、まるで小さな遊園地。赤い消防車は子ども達の人気スポット。又、農園で育てた野菜はお昼のお弁当の時にみんなまで美味しく食べています。秋には果物も。中でもザクろが子ども達は大好きです。食を通して健康な体と豊かな心を育てている事です。

④ 休日の過ごし方
自然の中に身を置いて、



ほほえみインタビュー (48)

高南幼稚園 主任 堀川 順子

空や風の音を感じ汗をかく。山登り、川遊び、美術館、舞台、スポーツ観戦など、歩く事も大好きです。家に居る時はのんびりしています。一番好きな家事は洗濯、そして布団干し。お日様の匂い一杯のポカポカお布団。シートやカバーは、パンパンと手で叩いて干したり畳んだり、気持ちもスッキリ!! 晴れ晴れします。

⑤ 主任として心がけていること
子ども達が子どもらしい生活を送れる様に、幼稚園全体の環境作り。園庭の遊具、草花や木々の手入れ、忙しすぎて皆で出来なかつた事、人目にあまりつかない小さな事も見つけて、一つ一つの仕事を丁寧に！を心掛けています。又、どんな時でも心をひとつにして、やる時はやる」と言う先生方の姿に、私も全力でサポート。日々のコミュニケーションを大切にしていきます。

⑥ 今気に入っておすすめなもの？
シルクの石鹸。洗顔も出来、体も髪も全部洗える石鹸です。シルクフェイスソープ、特に洗顔が気持ち良いです。ホイップしたクリームを顔にのせて洗顔する。そのホワホワ感が最高です。もう一つはシルクのソックス。冷え症の方、婦人科の先生もお勧めしています。履き心地がとても良いです。



県からのタイムリーな話題

私立幼稚園を担当しています県 学事法制課の平成28年度職員を 御紹介します。

- 課長 半田 良幸
- 次長 武井 俊彦
- 係長 羽鳥 正
- 主幹 堀口佳奈子
(教育委員会学校人事課から転入)
- 主事 小林千恵子
(健康福祉部国保護課から転入)

また、昨年度お世話になりました2名については異動となりました。大変お世話になりました。

- 係長 栗田 知明
(人事委員会事務局へ異動)
- 主任 木下 聖崇
(企業局財務課へ異動)

さて、今年度から新たに転入となりました職員の「自己紹介」及び「幼児期の思い出」について御紹介します。

○羽鳥係長

【自己紹介】

学事法制課は、7年ぶり2回目の勤務となります。協会のみなさまと連携しながら、幼児教育の充実に努めていきたいと思っています。

【幼児期の思い出】

4歳上の兄にくっついて、近所の子と暗くなるまで、野球や鬼ごっこ、川遊びなどを楽しんでいました。園バスに乗るのが大好きで、毎朝わくわくしながらバスの到着を待っていたのを覚えています。

○小林主事

【自己紹介】

今年の4月から国保護課から異動して参りました小林です。幼稚園担当になり、外出中など普段から、幼稚園を見かけると意識するようになった気がします。少しでもお役にたてるよう前向きに頑張っていきたいと思っています。

他県に住む同じ年の従姉妹が泊まりに来るのが楽しみで、よくかくれんぼやかまくら作りをして遊びました。そんな彼女も一児の母。月日が経つのは早いなーと日々感じています。



昨年度に引き続きお世話になります半田課長、武井次長及び堀口の自己紹介等については是非、バックナンバーをご覧ください!!
以上、今年度もお世話になりますが、どうぞよろしくお願いたします。



前列左から 武井次長、半田課長、羽鳥係長
後列左から 小林主事、堀口主幹

今回は、今年度認定こども園を担当する課員を中心に、「今年度のあいさつ」と「幼児期の思い出」についてご紹介いたします。

子育て・青少年課長 福田 芳美

県の組織改正により「こども未来部子育て・青少年課」が設置され、認定こども園を初めて担当させていただくことになりました。みなさんのお力になれるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

【幼児期の思い出】

幼稚園だったので、手作り給食があつてそれがおいしかったことをよく覚えていて、文字を覚えていたり、折り紙をしたり、楽しい幼稚園生活を送っていました。今見てみると園庭はそんなに広くないのですが、その当時は自分が小さかったので、園庭が広く感じられたという思い出も残っています。

子育て・青少年課 次長 永井 浩二

今年度からお世話になります永井と申します。皆様からいろいろとご指導をいただきながら業務に邁進したいと思っております。どうか、よろしくお願いたします。

【幼児期の思い出】

前橋郊外の古いお寺さんにあつた小さな幼稚園で、悪ガキたちと一緒に、園庭でザリガニ釣りやカマキリ取り、仮面ライダーごっこに興じていました。ちょっと怪我でもすれば、初恋の人、ナカザト先生に甘えられるという特典付きです。キラキラ充実した毎日を送っていたため小学校にあがった時のどんよりした気持ちが忘れられません。

子育て・青少年課 保育係長 久保 直孝

保育担当になり、4年目を迎えますが、新制度の定着のために奮闘する日々を送っております。何とぞ、御協力のほど、よろしくお願いたします。

【幼児期の思い出】

幼稚園、専業主婦が多かった時代ですが、母が日本舞踊教室をしていたため、自宅から離れた保育園に通っていました。当時、近所の友達と一緒に幼稚園に行きたいと駄々をこねっていたようです。今は、認定こども園があるので、いいですね。

子育て・青少年課 主任 坂本 寛明

認定こども園及び認可外保育施設を担当しております坂本と申します。今年度から認定こども園の担当となりました。施設の皆様には、ご助言やご相談等をいただきたくことになると思いますので、年間どうぞよろしくお願致します。

【幼児期の思い出】

お恥ずかしい話、どうにも給食が苦手で、毎日悪戦苦闘していた記憶があります。今、保育所に通う息子も私に似たのか、どうやら給食が苦手なようです。しっかり食べてすくすくと成長してほしいと思います。

子育て・青少年課 保育係 主事 秋山 貴宏

新制度及び認定こども園を担当しております秋山と申します。昨年は、主に研修の担当をしておりました。不勉強なところもごさいますが、一生懸命がんばりますので、よろしくお願いたします。

【幼児期の思い出】

当時から野球が好きだったようなのですが、園長先生の投げるボールがなかなかバットに当たらず、毎日練習していた記憶があります。今年第1子が生まれる予定です。粘り強くがんばる子に育ってほしいと思います。

子育て・青少年課 保育係 保育指導員 目黒 悦子

今年度から保育指導員としてお世話になっております。幼稚園、保育所に数十年勤務し、日々子どもたちと走り回っていましたが、行政の立場は初めてです。皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。

【幼児期の思い出】

村の保育所で過ごしました。地区の子どもは皆その保育所なのでとても仲良しで、12月の遊戯会に全員でおおかみと7匹の子ヤギの劇をしたのを覚えています。その日は親兄弟皆が集まり村の楽しみの一つだったようです。

課員紹介は、以上となります。今年一年どうぞよろしくお願いたします。



前列左から 永井次長、福田課長、久保係長
後列左から 坂本主任、秋山主事、目黒保育指導員

たより

おめでとうございます。

○県総合表彰

鈴木 利定 先生

(群馬医療福祉大学附属
鈴蘭幼稚園理事長)

○県総合表彰

蜂須賀 和夫 先生

(国分寺幼稚園園長)

研修だより

新規採用教員研修

前期Ⅰに参加して

(認) 山王幼稚園 山田 真美

初めての研修が4月2日にありました。幼稚園で先生として働いていくなかで大切なこと、心構え、あるべき姿など沢山のことを教えていただきました。中でも、あいさつは絶対に自分からするべきであり、必要であること、子ども達の様子を記録していくことが大切ということ、講師の方が強くおっしゃっていました。あいさつから信頼関係を築いていくこと、安心感を与えることができるということ、先手必勝ということを覚えていただいたので、自分から積極的に行うよう心がけていきたいです。子ども達の記録を取るということは、子ども達と日々関わり、成長を見守っていく中でとても大切な事

だと思えました。実際に子ども達と関わっていくときには、少しの変化にも気付ける人になり、記録をとり、子ども達の成長を見守っていきけるようになりたいと思えました。

子ども達にとつて素敵な先生とは、どういった先生なのかたくさん教えていただきました。その中で、「自分の大切なものを共に大切にしてくれる」ということが挙げられていました。このことは、成長し、大人になってからでも嬉しいことだと思えました。私も自分の大切なものを大切にしてくれるということは嬉しいです。子ども達の大切なものを知り、寄り添っていきけるようになりたいです。

今回の研修は初めてだったのでとても緊張していました。講師の方々が幼稚園教諭になるにあたり、大切なことをたくさん教えてくださいました。学んだことを忘れずに、これから始まる子ども達との新しい生活に生かし、子ども達のためになれるよう努力していきたいと思えます。

新規採用教員研修

前期Ⅱに参加して

(認) えのきこども園 早川 莉愛

前期Ⅱに参加して、教師としての服務と心構えや幼児教育の現状と課題、社会人としてのマナー、そして保育記録と要録の記入について幅広く学ぶことができました。また、幼稚園教諭である前に、一人の社会人であることの自覚を持つことが大切であると改めて感じるようになりました。

鈴木先生の講義からは、社会の変化に伴い我慢する力が弱くなってきている子どもや、様々な実体験が乏しくなっている子どもが増えている現状を知りま

した。子どもをしつかり理解し、自分自身も高めながら質の高い保育ができるよう努めていきたいと思えました。

また、日々の保育記録の重要さを知り、記録のための記録でなく、個を理解するための記録であることを意識していくことが大切であると強く感じました。

社会人としての常識やマナーをしつかり身に付け、子どもや保護者、同僚から信頼される教師になれるよう日々努力していきたいと思えます。

● 情報 ●

※「関東地区教員研修 埼玉大会」

「愛されて育つ子ども」を2年間の研究テーマに!

3年目以上の先生は、広い視野をもって自分の保育を見直し、次のステージに向けたキャリアアップが求められます。関東地区という研究の場で自分磨きをしてみませんか。ふるってご参加ください。

開催日時…8月23日(火)・24日(水)
主な会場…大宮ソニックシティ

大ホール 他

大会テーマ

「人生のスタートにこそ良質な教育を」子どもたちの幸せを願って、今!

*参加申し込みは6月10日(金)までに群私幼事務局あてにお願いします。
(群馬県の参加割り当て人数は60名です。埼玉独自の特別フォーラムを除き、概ね3年以上の保育経験が参加資格となります)

群馬県は次のフォーラムを担当します。

一般フォーラム 1
「愛されて育つ子ども」

外部ゲスト/大方美香(大阪総合保育大学教授
内部ゲスト/金子 仁(木の実幼稚園長
コーディネイター/小和瀬たかみ

(高崎健康福祉大学附属幼稚園園長)
提起者/下山 茜(認) 静和第一
幼稚園保育教諭

猪鼻友里(清風幼稚園教諭
解説) 全日私幼幼児教育研究機構の「保育者としての資質向上研修俯瞰図」の改訂(カテゴリーの見直し)が行われました。それを踏まえつつ、群馬県は今年から2年間にわたり右記のテーマで研究を深めていきます。「子どもにとつて愛されること」が何を意味するのか、保育者の共感的理解にはじまり、それを踏まえた様々な臨床的な支援の在り方を探っていくと考えます。県外の先生との出会いを大切に、専門性を高めましょう。
(柳/記)

編集後記

4月中旬に発生した熊本地震においては、甚大な被害をもたらし、改めて自然災害の驚異を感じさせる出来事となりました。被災された方々のご心痛は計り知れないものと拝察し、心よりお見舞いを申し上げます。

地震に限らず、温暖化による異常気象によつての風水害や火山噴火の恐れなど、いつ何処で起きるか分からない災害に対して、常日頃からの備えを怠らず、万が一に対応できる態勢を整えておくことが必要だと強く感じました。
(高月/記)

■次号176号は、平成28年10月3日(月)に発行予定です。